

## 東濃鉍山(東濃地科学センター)

施設管理者 : 核燃料 サイクル開発機構 東濃地科学センター  
施設所在地 : 岐阜県土岐市泉町  
調査見学時期 : 平成 15 年 2 月 21 日  
施設概要

今回視察した東濃鉍山は、瑞浪超深地層研究所 とともに核燃料サイクル開発機構・東濃地科学センターの施設のひとつで、東濃地科学センターは、高レベル放射性廃棄物を安全に処分するための地層処分技術に関する研究のうち、国の計画に示された地下深い所の地下水や岩盤の様子を知るために深地層の科学的研究を進めているところです。(GEC ニュース第163号より抜粋)



東濃鉍山事務所前にて

## 東濃地科学センターの東濃鉦山

施設管理者 : 核燃料 サイクル開発機構 東濃地科学センター  
施設所在地 : 岐阜県土岐市泉町定林寺 959- 31  
調査見学時期 : 平成 13 年 2 月 8 日  
施設概要

東濃鉦山では、地下水の動きや性質、ウランなどの物質の挙動、坑道掘削が周辺の岩盤に与える影響などの地質環境特性調査や、地質環境の長期安定性、調査技術・機器の開発に関する研究を行ってまいりました。

数千万年レベルの調査研究や宇宙空間実験への貴重なデータ収集など夢とロマンを感じさせる実験が地下空間を利用して行われており、地下の持つ可能性を再認識したものでした。これらの貴重な体験を今後の地下利用推進部会活動で活かして行きたいと思っております。

(GECニュース第138号より抜粋)



## 東濃地科学センター（東濃鉱山）

**施設管理者** : 核燃料サイクル開発機構 東濃地科学センター

**施設所在地** : 岐阜県土岐市泉町定林寺 959-31

**調査見学期** : 平成 12 年 11 月 11 日

### 施設概要

旧通産省地質調査研究所のウラン鉱床の路頭発見に基づき、昭和 40 年に原子力燃料公社が東濃探鉱事務所を開設したことに始まっている。

場所 岐阜県土岐市泉町河合字賤洞  
1221-8

位置 北緯 35 度 23 分 03 秒

東経 137 度 13 分 08 秒

面積 鉱山敷地面積 16,070 m<sup>2</sup>

(うち MGLAB:(株)日本無重量  
総合研究所 2,746 m<sup>2</sup>)

坑口標高 海拔 285m

坑道の深さ 130m

坑道の総延長 1,300m



東濃鉱山は、日本で最大のウラン鉱床である月吉鉱床に位置しており、昭和 47 年から月吉鉱床に調査坑道を掘削し、月吉鉱床の探鉱、採鉱技術開発などを行ってきた。昭和 61 年からは、地層科学研究（地下の岩石や地下水の研究）を開始し、月吉鉱床の形状、成因の調査等を引き続き行っている。

現在は核燃料サイクル開発機構 東濃地科学センターとして、

- 東濃鉱山における調査試験研究：東濃鉱山の坑道を利用した堆積岩の地質環境特性調査
- 広域地下水流動研究：一つの地下水系と考えられる範囲（東濃鉱山を含む地域の場合、約 10km 四方）の地下水の流れなどに関する全体的調査
- 超深地層研究所計画：超深地層研究所の地下千メートル程度までの花崗岩の地質環境特性に関する詳細な調査

が推進されている。